



浜っ子

【学校教育目標】
よく学び 心豊かで
たくましく生きる児童の育成

ひたちなか市立
那珂湊第二小学校
学校だより No.19
令和6年2月8日

那珂湊中学区少年の主張大会

1月27日、しあわせプラザで那珂湊中学区少年の主張大会が開催され、本校から6年生2名が代表として出場しました。Mさんは「命の大切さ」、Nさんは「今の自分にできること」という主題で発表しました。1月24日に全校児童の前で発表した時よりさらに上達しており、堂々とした発表でした。湊一小、湊三小、那珂湊中の発表も素晴らしく、自分の言葉で、日常生活やひとつの出来事をきっかけに考えたことを述べていました。本校代表児童2名の、発表内容の一部を抜粋して紹介します。



「命の大切さ」

どの場所、どの時代でも一番大切なのは命です。これは医師中村哲先生の言葉です。中村先生は、35年という長い間、日本から遠く離れたパキスタンやアフガニスタンでたくさんの人の病気を治療し命を救ってきました。アフガニスタンは、アジアの中でも乳児の死亡率が最も高い国です。ぼくの住んでいる日本では、病気になればすぐ病院で治療を受けたり薬を飲んだりすることができるのに、アフガニスタンではそれができないのです。

中村先生は、病気の治療も大事だけど、とにかく水が必要だと井戸を掘ったり用水路を作ったりします。中村先生が人々のために頑張っていたのに、アフガニスタンでは戦争が始まり人々は暮らせなくなりました。なぜ戦争をしたのか、ぼくにはわかりません。みんな仲良く暮らすことはできないのでしょうか。暴力には暴力で立ち向かってもなにもないと思います。もっとたくさん話し合っただけで戦争をやめることはできないのでしょうか。中村先生は戦争で殺されてしまいます。ぼくはすごく悲しい気持ちになりました。命より大切なものはないのに。なぜ、戦争をしている人たちにはわからないのでしょうか。

中村先生は命が一番大切だと言っていました。ぼくもそう思います。中村先生のようにはなれないかもしれないけど、今のぼくに何ができるか考えてみたいと思います。この世から戦争や貧困がなくなり、たくさんの人が平和に暮らせる世界になるよう、ぼくは自分ができていることをやりたいと思います。

「今の自分にできること」

令和6年元日、午後4時半頃、震度7のとても大きな地震が石川県を襲いました。テレビを見るとアナウンサーが、「あなたの命に危険が迫っています。逃げてください。テレビを見ていないで逃げてください。」など、強い口調で繰り返していました。また、大津波警報が流れていて、私もなんだか恐くなりました。母や兄は東日本大震災の時のことが頭に浮かんだということです。

石川県沖で地震がおきて何日か過ぎると、死亡した人の数が増えてきて、たおれた家や土砂崩れから逃げる様子がニュースでうつし出されました。私と同じ年の子が、今、いつもの日常がなくなり、体育館で寒い思いをしていたり大切な家族を失ってしまったりしたと思うと、とてもつらくなります。

私は自分に何ができるのか考えました。少しだけでも、復興のために募金をしました。復興に役立てて欲しいです。コロナ禍の時に、いつもの日常があたりまえじゃないと思ったはずなのに、私は今、何も考えずに毎日を過ごすようになってしまいました。私は、石川県の地震のニュースを見て、災害の恐ろしさと命の大切さを感じました。今までふつうに過ごしていたことに感謝して、これから私は、改めて1日1日を大切にすること、やろうと思っていたことを先延ばしにしないことを意識して生活していこうと思いました。明日、今日みたいな日常がくるとは限らないから。最後に、今大変な思いをしている人たちに、1日でもはやく普通の生活がもどるよう願っています。

いじめ防止集会

計画委員が企画・運営した「いじめ防止集会」を1月24日に実施しました。言われてうれしい言葉といやな言葉を事前アンケートで調査し、それらを発表しました。また、すれ違うときに避ける、後片付けを一人に任せるなど、日常の場面を寸劇にし、このような言動をしていることはないかをみんなで考えました。今回の集会は、子ども達自身が自分のこととして、いじめについて考える場になりました。計画委員が作成した「満開の笑顔の花を咲かせよう」のポスターも校内に掲示されています。これからも、継続していじめのない学校づくりに取り組んで参ります。

